

会議名	第47回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会
開催日時	平成29年1月13日（金）午前10時00分～12時00分
開催場所	板橋区役所 9階大会議室A
出席者	<p>[委員 19名]（敬称略）</p> <p>八藤後会長、水村会長代理、桑波田委員、佐々木委員、塩尻委員、シヨアキム・マンタル委員、曾輪委員、野原委員、杉浦委員、早坂委員、向畑委員、加藤委員、澤口委員、竹澤委員、湊委員（代理）、浅見委員、飯沼委員（代理2名）、濱添委員</p> <p>[関係機関オブザーバー 1名]</p> <p>篠原いたばし総合ボランティアセンター所長</p> <p>[事務局 7名]</p> <p>（福祉部）小池福祉部長、星野障がい者福祉課長、ユニバーサルデザイン推進係3名、</p> <p>（都市整備部）内池都市計画課長</p> <p>（その他）委託事業者1名</p>
会議の公開 （傍聴）	公開（傍聴できる）
傍聴者数	2名
次 第	<p>第47回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 板橋区バリアフリー推進協議会傍聴規程の改正について 2 平成28年度板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会工程の確認 3 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025（素案）に係るパブリックコメントについて 4 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025（案）について 5 その他
配布資料	<p>資料1 板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会傍聴規程（案）</p> <p>資料2 平成28年度板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会工程表</p> <p>資料3 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025（素案）に対するパブリックコメント</p>

	<p>資料４－１ 前回の協議会からの変更点</p> <p>資料４－２ 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025（案）</p> <p>資料４－３ 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025（概要版）</p>
<p>審議状況</p>	<p>（開会）</p> <p>事務局：定刻となりましたので、ただいまから、第47回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会を始めます。昨年12月に条例が改正されて、ユニバーサルデザイン推進協議会として第1回目の会合となります。はじめに、会長から一言ご挨拶をお願いします。</p> <p>会 長：皆様、おはようございます。新年ということで、また新たな気持ちで進めていきたいと思っております。どうか本年もよろしくお願ひいたします。計画も大詰めになってまいりまして、今までご検討していただきました最終のチェックをする大事な時期となりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>事務局：本日の傍聴ですが、2名の方が傍聴を希望されておりますので、ご了承いただきますよう、よろしくお願ひいたします。ここからの審議の進行は、会長にお願いしたいと思います。</p> <p>会 長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思ひます。</p> <p>まず次第の1番目、板橋区バリアフリー推進協議会傍聴規程の改正について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>1 板橋区バリアフリー推進協議会傍聴規程の改正について （事務局から、資料1について説明）</p> <p>会 長：これは、協議会の名称変更等に伴う文言の改正ですので、特段のご意見がなければご承認いただきたいと思います。</p> <p>（異議なしの声多数）</p> <p>それでは、ご承認いただくということで、資料1の表題の（案）というのを取っていただきまして、これを本日からの規程としま</p>

	<p>す。</p> <p>続きまして次第の2番目、平成28年度板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会の工程について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>2 平成28年度板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会工程の確認 (事務局から、資料2について説明)</p> <p>会 長：続いて次第の3番目に移りたいと思います。</p> <p>板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025(素案)に係るパブリックコメントについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>3 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025(素案)に係るパブリックコメントについて (事務局から、資料3について説明)</p> <p>会 長：次に、次第の4番目の板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025(案)について、事務局からご報告をお願いいたします。</p> <p>4 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025(案)について (事務局から、資料4-1、4-2及び4-3について説明)</p> <p>会 長：それでは、幾つか論点を絞って議論に移りたいと思います。まず本編コラムの部分について何かありましたら、お願いします。</p> <p>委 員：スマイルマーケット、板橋型BFブロックのコラムについて、括弧書きのものと括弧を外しての表現と混在しているところがありますが、この辺は意図的に外しているのかどうかということを確認したいです。</p> <p>事務局：特段の意図はありませんので、固有名詞については全てかぎ括弧でくくるという表現に統一させていただきます。</p>
--	--

	<p>会 長：次に本編38ページ、5章の取り組みの指針1から取り組みの指針4までについて、ご提案などがあればお願いします。</p> <p>委 員：事業一覧について、その他事業の「その他」という表現が気になります。その他だと、施策とどう関連があるのかがわかりづらい。ですから、関連事業あるいは連携事業など、一体感や連携感を醸し出す表現にしてはいかがでしょうか。</p> <p>事務局：その他というと、何に対するその他であるかという視点もございます。一方関連事業ですと、どれがどう関連するのかというようなこともあるので、文言については検討させていただき、わかりやすい表現を磨き上げていきたいと思います。</p> <p>委 員：指針2の表題で「地域で支えあう」と書かれてあり、一方指針3でも「暮らしを支えるまち（地域）」と記載されています。そのため、地域の使い方に統一感がないと思いました。ここはまちで支えあう（地域）として言葉の統一感を持たせないと、地域とまちの使い方がわかりづらいかと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>会 長：確認ですけれども、指針1の「地域で支えあうひとのもてなしの心を育みます」の「地域」と、指針の2の「暮らしを支えるまち（地域）の力を引き出します」の地域とでは、ニュアンスが違うのでしょうか。</p> <p>事務局：39ページのまち（地域）というのは、逆にわかりにくくなっているようですので、ここは平仮名の「まち」を生かして、後ろの（地域）を取る記載にさせていただきます。</p> <p>委 員：6ページのコラムの上から3番目の写真について、もっとわかりやすい写真があるといいのではないかと思います。あとは38ページから41ページのその他の事業の枠の中で、行間がもう少し広いと読みやすいです。下に余白があるので、下に伸ばすのはいかがでしょうか。</p> <p>事務局：コラムの写真について、今回の計画本編はカラー印刷にはならないので、一つ写真についてその特徴をあらわしたものが妥当かと</p>
--	--

	<p>思います。しかしながら、どこの製品ですというのを特定しない形でという意見もあるものですから、検討させていただきたいと思います。また行間については、見やすさに配慮して整えていきたいと思います。</p> <p>委員：商店街では、「安心・安全」はどこにでもある表現なので、「安心・安全・温かい」というトリプルAという指示でもって進めています。参考までに発言しました。</p> <p>事務局：ご紹介ありがとうございました。今後いろいろな取り組みを私どもも進めていく中で、今の温かいというところ、すばらしいと思いますので、参考とさせていただきたいと思います。</p> <p>委員：事業一覧右側の白抜きの文字になっているところが非常に見にくいので、ここの部分も工夫をしていただきたいと思います。</p> <p>事務局：確かに、これでは文字が細いので、表現について考えていきたいと思います。</p> <p>会長：それでは次に42ページ以降、事業概要について聞いていきます。</p> <p>委員：43ページユニバーサルデザイン研修の実施のところで、担当部が障がい者福祉課と記載されていますが、ユニバーサルデザインの概念を考慮し、高齢の担当課も含めてはどうでしょうか。ユニバーサルデザインでは障がい者だけではないということ、意図的に入れておかないと、伝わらないところもあるかと思います。</p> <p>事務局：こちらの表現については、責任を持って行う課を書いています。ユニバーサルデザイン研修を実施するということに対して、区全体としての責任を持って推進するのが障がい者福祉課であるということを表しています。対象は区職員としていますが、これは逆に言うと、高齢部門も障がい部門も、子育ての部門も、あるいはまったく異なる部署も全て一緒に研修を受けてもらって、理解を深めるという考え方です。</p> <p>委員：13ページ区の現状と課題について、ホームからの転落事故を防</p>
--	---

	<p>ぐための対策がなされていない駅があることから、これを解消していくことが必要です、と記載されていることに対し、具体的な対応策がどこかに書いてあるのでしょうか。</p> <p>事務局：52ページ、事業番号53番の内方線付き点状ブロック整備支援というところで記載しています。こちらは視覚障がい者の安全を確保するため、鉄道駅ホームへの内方線付き点状ブロック設置費を助成し、駅のユニバーサルデザイン化を推進するというものでございます。</p> <p>委員：ホームドア設置に向けてこれから展開されると思いますが、計画の中にホームドアのことについて言及しているといいと思うので、どこかに入れられないでしょうか。</p> <p>委員：東武鉄道です。ホームドアについては、先日、東武鉄道のホームページで発表させていただきました。内容としましては、2021年度以降について大山駅、中板橋駅、ときわ台駅、上板橋駅、東武練馬駅、下赤塚駅、成増駅の7駅について、ホームドアについて整備をしていくという計画となります。2021年度以降ということで、具体的な年度は決まっておきませんので、区とも助成金の関係をこれから詰めていき、計画年度を決めていきたいと考えております。</p> <p>事務局：今回、計画期間内にホームドアの設置が具体化しているものはありません。しかし、鉄道事業者と調整をしながら順次進めていくよう努力していきたいと思っています。</p> <p>本編への記述に関しては、5章の位置づけとして実施計画という場所になっており、どういうものを実際に何年度に行われているという表現で統一しております。現時点でホームドアを設置する具体的な計画が確定しておりませんので、ここには記載しておりません。つきましては、本編2章「現状と課題」の項目内に、ホームドアに関する記述を入れさせていただければと思います。</p> <p>委員：ホームドアはコストが高いから、内方線でいいという風潮もあり</p>
--	--

ます。点状ブロックはないよりはあったほうがいいに決まっていますが、それがあからホームドアは不要であるという話でもないので、ホームドアに関する記述を、点状ブロックの記述よりも先に書いていただければありがたいと思っております。

委員：「ユニバーサルマナー」という言葉をよく耳にしますが、ユニバーサルデザインとユニバーサルマナーとの関係性がわかりづらいです。マナーは日常生活の基本にあるかと思いますが、ユニバーサルデザインではハード面とソフト面両方の理念があります。その点、ソフト面では「もてなしの心」が大切であるとしていますが、「もてなす」というのは、特別な方やお客様に対しての心遣いという意味合いとなっております。ついては、日常の心遣いということとユニバーサルデザインという関係性についてお聞きしたいです。

事務局：ユニバーサルマナーという言葉が、どのくらい社会に定着しているかという点から始まるのかと考えております。ユニバーサルデザインに端を発して、本編のコラムでも「ユニバーサルスポーツ」と記載し、いろいろな人が楽しめるという意味での使い方をしております。翻って、ユニバーサルマナーについては、接客という点に着眼して、いろいろな方をもてなし接客するというような視点で使われているのかと思っております。ただし、現状では公の言葉になっていないという理解でございますので、現時点でユニバーサルマナーについての言及はしていません。

ユニバーサルマナーやユニバーサル教育など、ユニバーサルをつけると、言葉の意味も変わってくるという現在の社会情勢があるため、今回の計画としては、あえてユニバーサルデザインの言葉を定義するところから始めて、そのもとで行うというようなものにしていきます。

また、もてなし＝接客というイメージも一面としてはありますが、人と人のコミュニケーションの中で、相手のことを思いやる

	<p>というような捉え方をしておりますので、ここではそのような考え方でまとめていきたいと思っております。</p> <p>オブザーバー：パブリックコメントの回答で「もてなしの心については本文中に明示します」ということが書いてありますが、そこがどこなのかを教えていただきたいと思っております。</p> <p>事務局：本編22ページ欄外に脚注として「板橋区人材育成・活用方針－ひと創り2025－では、相手の立場に立って、相手が求めていることに誠実かつ自発的にこたえようとする姿勢」と記載しています。</p> <p>委員：重点事業とその他事業の分け方について、いま一つ読み込みづらい印象です。素案の段階では、施策に対して、関連事業という形にされていましたが、今回それが外れています。しかし並び方は、ほぼ前回のままです。この中には、関連事業もあり、関連から外れている部分もあったかと思えます。その辺をもう少し整理すれば、どういった事業展開になっていくのかがわかりやすくなるのではないのでしょうか。整理の仕方については、部局でまとめるというのもあろうかと思えますし、例えば学校関連の整理を集めてまとめる方法も考えられます。</p> <p>事務局：従来の区の計画書では、取り組みの指針、施策をつくり、施策の下にツリー構造をぶら下げていくものが一般的でした。前回お示ししたのは、まさにそういうものです。</p> <p>反面、従前型の取り組みでは、どうしても縦割りに見えてしまい、別の部署のことは関係ないということが起きやすいという指摘もありました。今回はそういった反省を活かし、あえてツリー構造にはせず、どこの課の仕事はこれですということをやらないこととしました。また、ユニバーサルデザインではいろんな施策に一つの事業が絡んでくるということがありますので、この箱に全部をまとめていきたいと思えます。</p> <p>それから、その他事業に入っているものについては、従来のバリ</p>
--	--

アフリー推進計画で定めたバリアフリーというものが、決して終わったわけではなく板橋区にまだバリアはいっぱいあるということも示したいという思いもあり、ユニバーサルデザインではないからという理由だけで消してしまうのはよくない。見せ方については、このような趣旨でやっているものであるということをご理解いただければと思います。

委員：私たちは手話を使っております。手話とユニバーサルデザインの関係性や課題がよくわかりません。聴覚障がい者は、手話が優先され、手話が命です。これとユニバーサルデザインとが、どういう位置づけにしたらいいのかがわからないので、パブリックコメントも出せませんでした。どう考えたらいいのか、教えていただければと思います。

また、その他の事業の中に手話講習会のことも入れるべきではないのかと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局：手話は重要なコミュニケーション手段です。その点、情報のユニバーサルデザインという意味では事業の76番、会議・イベント等に参加できる環境整備の検討の部分で、乳幼児などの一時保育などについて言及しております。しかしながら、踏み込みが足りない感じがありますので、点字や音声読み上げソフトなどについても入れるとともに、情報のユニバーサルデザインについても研究させていただきたいと思います。

また手話講習会についてですが、従来のバリアフリー推進計画には取り上げていなかったものですから、今回は上がっていませんでした。しかしながら、人を育てていくということは重要なテーマですので、前向きに調整したいと思います。

会長：ありがとうございます。情報のユニバーサルデザインというのは、今の時点では考えもつかないようなことが出てくるという可能性もあるので、手段をここで特定したくないというのもあるのかと思います。

ただし、現在ある手段について非常に重要な位置づけになっている人たちがいるわけですので、従来のコミュニケーションの手段についても、きちんとした扱いをしていただければと思います。

委員：33ページ各主体の役割ということで、4つの円があります。区、区民、事業者、地域活動団体ということで、連携・協働の輪ということになっています。この計画の実現については、区が非常に大きな役割を果たすということは、当たり前のことですが、それに対して区民、事業者、地域活動団体ということが同じ大きさで示されています。32ページにも各主体の役割ということが明確になされているわけですが、ユニバーサルデザインという考え方を地域の人たちの隅々まで行き渡らせていくためには、区民や地域活動団体なども力を発揮しないと、実現しないと感じます。そういうことを考えると、区民一人ひとりがパートナーであるといった位置づけをきちっとしないといけないと思っています。

そういったものが、この施策の中にもちりばめられていると思いますが、どうも明確なイメージが出てきません。ですから、区の施策を実現するうえで、区民、事業者、地域活動団体＝パートナーとしての位置づけを、施策の中に反映させる必要があるかのではないかと思います。

事務局：今回この役割を記載した意味としては、これからは地域活動団体としてNPO法人、町会自治会、商店街連合会の方々などと一緒に発想してものをつくっていきたいということで、こういう位置づけをさせていただいています。またユニバーサルデザイン推進条例をつくらせていただいたわけですが、バリアフリーを改めてユニバーサルデザインにしたことに加えて、地域活動団体を新たに位置づけています。この計画にどう位置づけるかによって、地域活動団体が動きやすくなるのか、ならないのか。あるいは現状では足りているのか、足りていないのかというのは難しいところ

ですので、今後もこういった会議などでご意見をいただきたく思います。それから、ユニバーサルデザインというものが、理解されていない現状にあり、障がいのある方の困り事、あるいは子育て中の方の困り事なども、社会的に十分共有されていない状態ですから、そこをしっかりと工夫し、地域課題をみんなで分析する必要があると思っていますので、ぜひ皆さまからご意見をいただきながら、検討していきたいと思っています。

委員：区や区民などの負担に関する提案をします。例えばホームドアをつけてもらうためには、ある程度の負担を障がい者もしていかなければいけないということも、しっかりと明記をしてほしいと思います。ディズニーランドの例でいうと、今では障がい者割引がなくなっています。これはみんなが使えるということは、応分負担ができなくなるということです。ただ訴えるだけでは、この社会自体が厳しくなってきたというのを感じているので、制度全体を見直していき、ホームドアやエレベーターの設置などを考えていかないといけないのではないのでしょうか。

事務局：負担のあり方については、さまざまな価値観、議論がありまして、今回の計画でいうユニバーサルデザインは、いいものをあらかじめ作ることにより、経費を圧縮できないかといった考え方で、作り直しで無駄なものをつくらないという発想ですので、こちらではそこまで踏み込まない予定です。しかし、他計画の策定もございまして、負担のあり方については、非常に大きいテーマで続いていきますので、区と事業者、当事者、あるいは利用者でよりよい方法を検討していきます。

またホームドアの例で言いますと、障がいの有無にかかわらずうっかり滑り落ちるということもあり得るわけですから、障がいのある方だけが負担を増やすということでもないと思っています。あらかじめよいまちをつくるために、引き続きご協力をいただければと思っています。

会 長：1970年代に行われた運輸審議会の話をしします。当時、駅にエレベーターをつけるということは技術的、経済的に不可能だと言われていました。そのかわりに障がい者割引というのをやろうというところから始まっているので、今のご意見というのはそういう観点から見るともっともな話だと、改めて思いました。

それでは次に、本編60ページ移動のしやすさと美しい空間を考慮した施設整備のイメージ図について、何かご意見などいただければと思います。

委 員：新規に建設されている公共施設だと、図のような整備をされているところが多くなっている印象です。しかし、これではターゲットが絞られていない印象があり、漠然としている気がします。

例えば、車いすユーザーを中にいれたり、整備されたバス停を置き乗り降りがスムーズにできている場面があったりするといいと思います。

事務局：この図を描きました一番の狙いというのは、行政は縦割りではなく面というものを意識し、協働して一緒にものをつくっていくというものです。しかしながら、ユニバーサルデザインの中で車いすの絵がない、バス停がないといったことについては確かにその通りですので、どのような表現するとわかりやすいかということ踏まえて、検討していきたいと思います。

会 長：次に61ページスパイラルアップのイメージ図、あるいは計画の推進に向けての内容について、妥当かどうかをお聞きします。

委 員：スパイラルアップの考え方は、ユニバーサルデザインを推進していく自治体で採用しているもので、こうした動きを進めていくうえではベースとなっているものです。しかし、計画実行をするのは自治体なり事業者なりということで、評価や改善のプロセスの中に、もっと区民が参画していくような体制を組んだほうがいいのではないかと。今のところ、この協議会で報告し検討するというだけになっていますが、区民の方も巻き込んで行っていくこと

も有効的です。協議会はコアの組織だとは思いますが、むしろ主役が区民であるというような記述であるとよろしいのではないかと。また計画の発展に伴い、区民参加、あるいは当事者参加を促進するような試みも、あわせて表現していくべきではないでしょうか。

事務局：区民参加というのは、さまざまな事業や計画策定時にパブリックコメントで各団体に呼びかけをさせていただく等、区で行う事業の性質などを考慮し必要に応じてやっていくべきものであろうと理解しております。表現方法については、区民も参画していくということを訴えられる表現に検討できればと思います。

また、進捗管理については、会議事録の要旨も含め、いろいろなところで公開しております。そういう中でご意見を頂戴しながら進めるということ。しかしながら、ワークショップなどでは参加いただいた方だけの意見になってしまうということがあるものですから、各福祉団体の方に呼びかけをし、広く意見を求めて、利害が対立する場合には、区も間に入って調整していくというようなことが、今後とも重要だと思っておりますので、考えさせていただきたいと思います。

委員：スパイラルアップの図について、計画、実行、評価、改善が一つのサイクルとして残って繰り返されているようなイメージ図だと、見やすいと思います。計画の真上に評価があると、視線がそのまま上にいってしまうので、ぐるぐるとつながっていくような表現ができればと思います。

事務局：1 スパンがはっきりするよう、見やすさを考えたいと思います。

会長：最後に全体を通して何かあればお願いします。

委員：計画の概要版を、学校の総合学習の時間に使ったり、あるいは認知的な障がいを持っている方にも使ってもらったりすることで普及啓発できると思います。その点、子ども向けの概要版となると、最低限ルビは必要かと思いますが、そういった配慮をお考え

	<p>なのか。それとも、これを概要版としておさめて、今後別のものを作るのかということをお伺いしたいと思います。</p> <p>事務局：こちらは一般向けの概要版としてとらえております。そのため子どもにもわかるようなものを一つ、これとは別に用意しようと思っております。</p> <p>会長：あわせて、概要版についてどういうことを言っているのかイメージでわかるような写真や図などを入れていただければと思います。今のままだでもきれいに整理がされていますが、一般の人や子どもでは理解しにくいところもあるかと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>オガバー：世田谷区でユニバーサルデザインを区民の方に周知する際に、カラーでわかりやすい絵や図を使用したものが出ていますので、そういうのを参考にされるといいと思います。</p> <p>委員：パブリックコメントの回答に、障がい者スポーツ大会を改組してユニバーサルスポーツ大会を行うという文言がありますが、これは確定している内容なのか構想なのかお伺いできますか。</p> <p>事務局：今のところは、障がい者スポーツ大会は非常に長い歴史もありまして、皆様の意見も寄せられてきているので、大きく変える予定はありません。</p> <p>パブリックコメントの回答については、誤解を生む文章となっておりますので、表現を改めたいと思っております。</p> <p>委員：概要版の3ページ、移動手段や交通施設等の項目の中に、「区内鉄道駅ではほぼすべての駅でバリアフリーの1ルート化が確保されています」と記載されています。私の実体験の話ですが、鉄道駅によって階段の下りる方向、上る方向がばらばらで困っています。こちらは左通行だと思って行くと、実は右側で人とぶつかるということが、今までに何回もありました。このように、普段の日常の中のごく普通に行動することにさえ、その矢印が邪魔をする。この問題は鉄道各社や交通局の方針があるのかどうか、それ</p>
--	--

もわからないままで不便に感じています。

その点、3ページのところの下に公共施設の整備改修時「はじめから」ユニバーサルデザインにマッチングしているかチェックすることが必要だとされているので、各駅がばらばらに矢印の右側通行、左側通行を勝手にやっているということもチェックすることも必要かと思いますが、区ではどのように考えていらっしゃるかをお聞きしたいです。

事務局：ユニバーサルデザインというものの考え方ですけれども、使いやすいということが大事です。基本は道路を歩くときのルールにのっとり歩行者が右側通行で、車は左側通行というものはありますが、出口に円滑に行くために大きい人の流れを遮断しないようにと、いろいろなご配慮をいただいている結果、そうなっているものだと思います。

反面、それはなぜそうなのか、あるいは矢印が見えたり見えなかったりということで、混雑していると足元に矢印があってもわかりませんから、右側通行のつもりで歩いたらぶつかってしまうこともありますので、さまざまな方々のご意見を聞き、議論しながら物を考えていくというのが大事だと思います。誰かが一人で解決すればできるということではないというのが、ユニバーサルデザインの一番難しいところでもありますので、引き続きいろんなご意見を寄せていただきながら、区でも調整が必要な場合には、積極的におこなっていきます。また各事業者、あるいは地域活動団体の方にお願ひしなければいけないこともありますので、引き続きよろしくお願い致します。

委員：東京都交通局です。通行区分については、駅の構造やお客様の流動を考慮し、安全に利用できることを念頭に置き、各駅の判断で対応しているところではあります。そのため、右と左が入れかわるという場合もありますが、なるべく衝突がないように設定をしているということでご理解いただければと思います。詳しい情報が必要で

	<p>あれば、個別にお答えしたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>委員：概要版3章に、バリアフリーのことを言及してもいいのではないかと思います。前段の部分にもバリアフリーの言葉が出ていますし、そもそもこの計画が従来のバリアフリーの推進とのつながりの中で計画されているものですから、どこかにバリアフリーについて言及できたほうが伝わりやすいのではないかと感じます。</p> <p>事務局：ご指摘のとおりだと思います。バリアフリーがあってユニバーサルデザインがあると、連続して進めておりますから、この点については検討したいと思います。</p> <p>委員：本編と概要版で、副題が異なっています。概要版では、「もてなしの心を大切に」というのが副題に入っていますが、本編ではその部分がないため、整合性がとれていません。そのためどちらかにしたほうがよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>またパブリックコメントの6人・30件というところが、ほかの区の計画のパブリックコメントと比べて、件数、人数的に多いのか少ないのか、その辺の比較も情報をお持ちでしたら、教えていただきたいと思います。</p> <p>事務局：副題については、読み手に対して短いほうが伝わりやすいのではないかという部分もありましたが、将来像を変えてしまうのはよくないといったご指摘もあり、概要版の副題の形になりました。こちらに統一します。</p> <p>またパブリックコメントの件数ですが、区では一般的には10件程度ということはパブリックコメントではよくあるものでございます。ただ、計画の性質によっては、多く寄せられる場合もあります。今回は各団体にもご協力いただいたので、そういう意味では多く集まったと思います。</p> <p>委員：本編60ページのコラム、デザインで解決するというコラムですが、デザインというものがバリアフリーから一歩踏み込んでユニ</p>
--	---

バーサルデザインというものになっているという内容で、すばらしいと思います。しかし、タイトルと内容が一致していない印象を受けるので、デザインの持つ力、あるいはデザインの持つ可能性といった前向きな形にされたいかがかでしょうか。

また、移動のしやすさと美しい空間を考慮した施設整備のイメージ図について、自転車と歩道が分かれています。危ない場面を見ることが多い印象です。例えば、グリーンホールと板橋一中の間の道路もはっきり分かれています。危ないと思うときがありました。そのあたりのこともご検討いただけたらと思います。

事務局：コラムのタイトルに関しましては、非常にいいタイトルをいただきましたので、ご指摘の案の中から、事務局でまとめさせていただき、積極的な表現に改めたいと思います。

それから、自転車道と歩道の問題です。こちらはマナーによるところが大きいものです。個別の問題については、所管の部署にも話をしながら、自転車と歩行者の分離のあり方について、検討を進めてまいります。

委員：本編第1章で、「従来のバリアフリーから全ての人にとって使いやすい地域社会を目指すユニバーサルデザインを推進します」とありますが、従来という言葉を取ったほうが、すっきりいくような気がします。

事務局：バリアフリーは終わってしまっていて、ユニバーサルデザインになるのだと捉えられてしまうというご指摘だと思いますので、バリアフリーの課題については、継続して対応していきながら、加えて新しくつくっていきます。新しくつくるものは最初からということだというのが伝わってくるような表現とさせていただきます。

5 その他

事務局：本日の協議会を持ちまして、今年度の協議会については終了とな

	<p>ります。お忙しい中、毎回多数のご出席を賜りましてまことにありがとうございました。</p> <p>今後の予定ですが、ご指摘をいただいた分を含めて区の内部で再度検討しまして、今月中の決定を目指してまいります。その後、2月の区議会に報告いたしまして、印刷後、製本等を行い、皆様にも完成版をお送りさせていただきたいと思えます。</p> <p>なお、来年度の協議会ですが、日程については追ってお示しさせていただきます。来年度は策定した計画に基づき事業を行ってまいります。研修やガイドラインの作成などを行っていくほか、ユニバーサルデザインを広く知ってもらうための広報に努めてまいります。皆様からのご意見を賜りながら、よりよい事業としていきたいと思えますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>会 長：それでは、これで閉会といたします。本年度の皆様のご尽力に改めて感謝いたします。どうもありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>
<p>所管課</p>	<p>福祉部障がい者福祉課ユニバーサルデザイン推進係 (電話：3579-2252)</p>